

vol.107

2020年3月号

公益財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金

〒105-0022 東京都港区海岸 1-4-26 ゆうらいふセンター

電話：03-3434-2170 FAX：03-5401-0681

URL: <http://www.niceheart.or.jp/>



な い す は あ と



ユニバーサルスポーツワークショップ集合写真

表紙／写真 ユニバーサルスポーツワークショップ集合写真	1
報告／ユニバーサルスポーツワークショップ	2
寄稿／ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究	3
「ユニバーサルスポーツとは何か」日本福祉大学スポーツ科学部長 藤田 紀昭さん	
2020年度事業計画	6
ふれあいのスポーツ広場日程表／賛助会員募集	8



～誰もが楽しくスポーツできるプログラムを～ ユニバーサルスポーツワークショップ

主催：日本福祉大学

仙台ユニバーサルスポーツ研究会

西九州大学 アダプテッド・スポーツ研究会

(公財) 国際障害者年記念ナイスハート基金

2020年2月20日～22日／西九州大学 神埼キャンパス / 佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館

当基金は、ふれあいのスポーツ広場のプログラムのご指導やご提供をいただいている、日本福祉大学スポーツ科学部 学部長 藤田紀昭先生、兒玉 友先生、仙台ユニバーサルスポーツ研究会代表の佐藤一樹さん、西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会 山田 力也先生のご協力のもと、障害の有無に関わらず楽しみながら取り組むことのできるユニバーサルスポーツのワークショップを実施致しました。

今回は、西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会の皆様の全面的なご協力を頂き、初めて西九州大神埼キャンパスを拠点としてワークショップを行い、交流会では地元の放課後等デイサービス4施設の方々に集まって頂きました。

参加者は、日本福祉大学9名、仙台ユニバーサルスポーツ研究会1名、西九州大学26名、当基金3名、総勢39名となり、過去最大の人数で実施することができました。

初顔合わせの方々が多々いる中で、学生同士のコミュニケーションも活発に行われ、1日目から2日目にかけてのプログラム作りでは、早い段階から、意見を出しあい、形あるものに変えていき、完成へとスムーズに進んでいきました。

交流会では当初の予定より30分短縮されましたが、直前で試行錯誤して本番に臨み、沢山の子供たちの笑顔にふれあうことができ、無事終了致しました。

～スケジュール～

【2月20日】

12:30 オープニング

- ・「ふれあいのスポーツ広場」の経過
- ・ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究の要約

13:20 活動紹介と自己紹介（日本福祉大学 / 西九州大学）

14:20 ユニバーサルスポーツについて

「日本福祉大学 助教 兒玉 友」

15:20 グループワーク

- ・アイスブレイク / グループのプログラムづくり

16:45 終了

【2月21日】

9:15 グループワーク

- ・ラジオ体操 / プログラムづくりの続き
- 道具ありと道具なしの2パターンを作成

11:15 ニュープログラムのポイントの共有 / 改善点の洗い出し

11:45 交流会のニュープログラム発表 / 役割分担

13:00 ニュープログラムのブラッシュアップ

14:35 リーダー会議（リハーサル前の準備）

15:30 全体リハーサルと明日への整理

16:15 終了





【2月22日】

9:05 交流会準備開始

11:00 スポーツ競技の体験と交流会スタート

・子供 31 名 / 大人 15 名 合計 46 名

はじめのあいさつ

11:02 ダンスたいそう

11:05 プロポーズだいさくせん

11:15 バウンドホッケー

11:20 ボールリレー

11:35 クルクルパラシュート

11:55 おわりのあいさつ⇒記念品贈呈・撮影

12:00 終了⇒良かった点・改善点の振り返り

～ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究～

2019 年度のユニバーサルスポーツ実施団体及び障害福祉サービス事業所等のスポーツに関わる活動の事例研究報告書からの抜粋

「ユニバーサルスポーツとは何か」

藤田 紀 昭

日本福祉大学スポーツ科学部長・教授

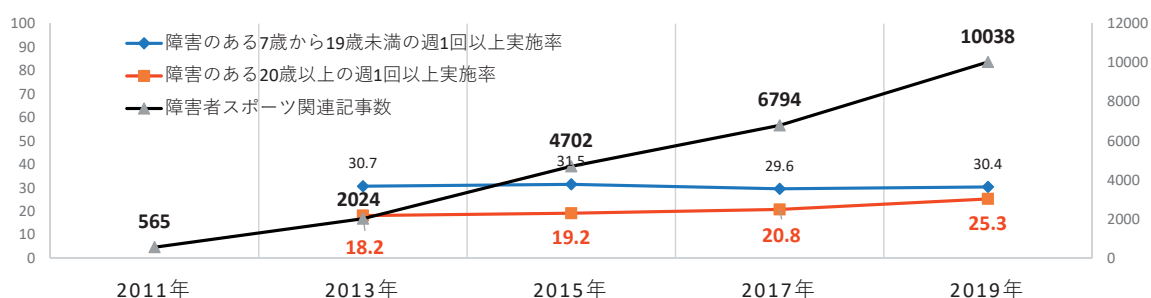


2013 年 9 月に東京でのオリンピック・パラリンピック開催が決まって以降障害者スポーツとりわけパラリンピック採用競技は多くの関心を集めている。新聞やテレビで障害者スポーツが取り上げられる機会はうなぎのぼりに増えている。新聞の記事数に注目してみると 2019 年は 2013 年の約 5 倍である。一方で、障害者の成人の週 1 回以上のスポーツ実施率は 2013 年が 18.2%、2015 年が 19.2%、2017 年が 20.8%、2019 年が 25.3%と微増にとどまっている（図 1 参照）。つまり障害者ス

ポーツやパラリンピックに人々の関心は集まっているが、障害のある当事者のスポーツ実施にはそれほど影響を与えていないということである。その要因としては、指導者やスポーツと一緒にする仲間や場所の問題、障害者スポーツに関する情報に触れることが少ないことなどが考えられる。さらに、多くの障害者たちが既存のスポーツに関心がなかったり、何らかの要因からいわゆる競技スポーツに参加できないことの表れと言えるかもしれない。

図1 障害者スポーツ関連新聞記事数と障害者のスポーツ実施率（週1回以上）

記事数：朝日・毎日・読売データベースからパラリンピック、障害者スポーツ、パラスポーツで検索した数
スポーツ実施率：スポーツ庁調べ



スポーツ庁が2017年に示した第2期スポーツ基本計画の中では、成人障害者のスポーツ実施率（週1回以上）の目標を40%としている。目標達成のために、地方公共団体等において障害者スポーツを総合的に振興する体制を整備することや、スポーツ施設のバリアフリー化、全ての特別支援学校が地域の障害スポーツの拠点となること、障害者スポーツ指導者の養成の拡充など様々な施策が掲げられている。その中の一つに障害のある人とない人が一緒に親しめるスポーツ・レクリエーションの推進がある。障害のある人と無い人が一緒にスポーツを楽しむことが日常的に行われるようになれば、両者の間にみられる垣根はどんどん低くなり、共生社会が実現されるといっても過言ではない。しかし、言うは易し行うは難です。そもそも障害の重い人と障害のない人がともに楽しめるスポーツ、あるいは様々な障害のある人が一緒に楽しめるスポーツなんてあるのだろうか。音を頼りにプレーする視覚障害者と視覚情報を頼りにプレーする聴覚障害者が一緒にプレーすることを想像すればその難しさがわかるはずである。ユニバーサルスポーツはそうした疑問に対する一つの答えと言える。

ユニバーサルスポーツとはどのようなスポーツか

ユニバーサルスポーツとはどのようなスポーツか？1980年代にアメリカのノースカロライナ州立大学ロナルド・メイヌ氏によって提唱されたユニバーサルデザインのもつ特徴を手掛かりに考えてみる。ロナルド氏によればユニバーサルデザインには以下の7つの特徴があるとしている。

- ① 誰にでも使えること
- ② 使う上で柔軟性があること
- ③ 使い方が簡単で直感的にわかること
- ④ 必要な情報がすぐにわかること
- ⑤ 簡単なミスが危険につながらないこと
- ⑥ 身体的負担が少ないこと
- ⑦ アクセス・利用しやすい十分なスペースが確保されていること

これらは工業デザインを想定して考えられた特徴である。スポーツに置き換えて考えてみると次の4

つの特徴を持つスポーツと言える。

①ルールに柔軟性があり、様々な人の参加が可能であること

オリンピックやパラリンピックでは、標準記録を突破した世界ランカーで、障害の程度はこの程度というふうに参加できる人が厳格に決められている。競技規則も厳格であり、ルールに沿った動きができない人は参加できない。しかし、ユニバーサルスポーツはその逆である。ルールをできるだけフレキシブルに運用して、だれでも参加できるよう工夫することがポイントである。本報告書で紹介している様々なスポーツや大会のほとんどがフレキシブルなルールでスポーツを実践している。

②勝ち負けのあるスポーツの場合、だれにでも勝つチャンスがあること

勝ち負けのあるスポーツの場合誰にでも勝つチャンスがなくては面白くないし、参加する意味がない。体力があって背の高い人だけが有利なものでは障害が重くてゆっくりとしか動けない車いす利用者は勝つことができないはずである。フランスの社会学者ロジェ・カイヨワはスポーツの重要な要素である「遊び」の特徴について、『遊びと人間』の中で述べている。それによれば「遊び」にはアゴン（競争）、アレア（偶然）、ミミクリー（模擬）、イリンクス（眩暈）4つがあるとしている。オリンピックやパラリンピックはこのうちアゴンの要素が非常に強いタイプだと言える。じゃんけんや、パチンコ、くじ引きなどはアレアの要素が強いもの、ダンスや演劇はミミクリーの要素が強いもの、ジェットコースターやサーカスはイリンクスの要素が強いものと言える。アゴンの要素のみが強くなると体力や知力勝負となり、身体機能や知的能力が劣っている人は不利となる。しかしアゴン中心ではなく、他の三つの要素の強いゲームやスポーツであれば、だれにでも勝つチャンスが持てる。そうした工夫がユニバーサルスポーツには必要となる。

③ルールがシンプルで誰でもが理解しやすいこと

ユニバーサルスポーツのルールは誰にでもわかりやすく、シンプルなものではなくてはならない。さらに勝ち負けがある場合はその結果がわかりやすいものである必要がある。知的障害のある人が参加する場合、複雑なルールや結果を見通せないゲームやスポーツは理解しにくく、参加しにくいものになる。

④身体的な負担が少なく、安全性が確保されていること

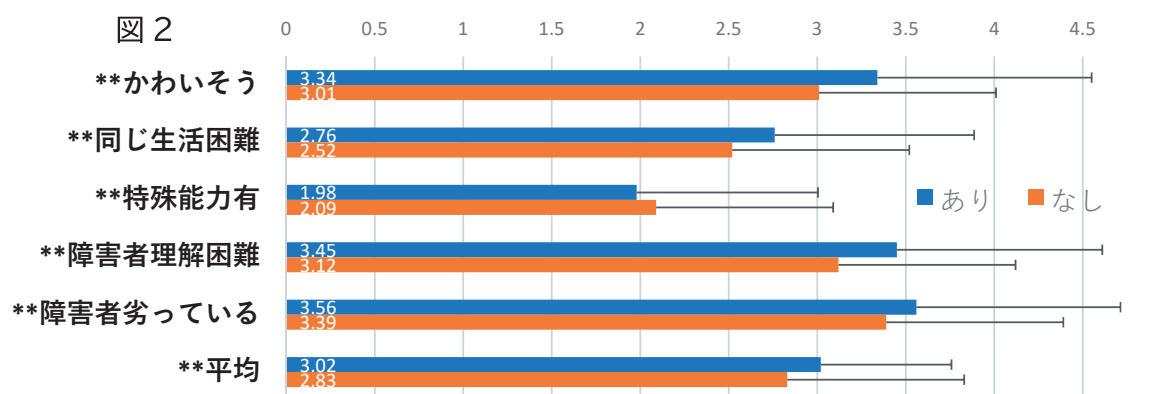
身体的な負担が大きいものや安全性が確保されていないスポーツは子どもや高齢者、障害のある人には参加しにくいものとなる。

ユニバーサルスポーツの必要性

今年8月25日に開幕するパラリンピック。開催の目的は何か？ パラリンピック開催の目的は一言でいうと共生社会の実現である。障害のある子どもから高齢者まで、すべての人が障害のない人と同じようにやりたいときにスポーツを楽しめる社会を実現し、だれもが健康で生きがいを持った暮らしが可能な社会を築くことが目的である。パラリンピックには4つの価値、すなわち、勇気（マイナスの感情に向き合い乗り越えようと思う精神力）、強い意志（困難があってもあきらめず限界を突破しようとする力）、インスピレーション（人々の心を揺さぶり、駆り立てる力）、公平（多様性を認め、創意工夫すれば、だれもが同じスタートラインに立てることを気づかせる力）があるとされ

ている。パラリンピックはこの価値を使って、共生社会を実現させようとする社会運動なのである。パラリンピック開催により社会がこのように変化する事がまさにパラリンピックのレガシーとなる。パラリンピックをトップレベルの競技スポーツ選手だけのものとせず、この機運を生かして、多くの障害のある人がスポーツを楽しめる環境が作られることが重要である。そのためにもユニバーサルスポーツは必要だと言える。

視点を変えて、障害のある人の実生活を考えると、自立して生活している人も多いが、様々な形で、介助者や家族から支援をして日常生活を送っている人も多い。日常的に一緒にいる人と共に楽しめるスポーツがあれば介助者は介助者であると同時にスポーツへ参加者となることができる。さらに、一緒に楽しめるスポーツがあれば介助者が必要な障害者のスポーツ参加もしやすくなるはずである。つまり、一緒に楽しめることで障害者がスポーツを実施しやすくなり、その実施率も上がる可能性がある。そしてなにより、障害のある人と無い人が互いに理解を深め、共生社会の実現へとつながるはずである。障害者と一緒にスポーツをした経験がある人はそうした経験がない人と比べて障害のある人に対してよりポジティブな意識を持っているという調査結果はその証左と言える(図参照)。誰でも参加でき、楽しめるユニバーサルスポーツが共生社会の実現に寄与することを期待したい。



障害者と一緒にスポーツを実施した経験の有無別にみた障害者に対する意識

(2019年) 点数が高いほうがポジティブな意識 **<0.01

2020 年度事業計画

設立より、当基金が目指してきたことは、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現であり、様々な視点で障害のある人たちへの課題を考える機会をつくることを目的とした事業への取り組みを、引き続き展開していきたいと考えております。

1. ふれあいの広場事業

(1) ふれあいのスポーツ広場の実施



障害のあるなしに関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。

平成4年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、ユニバーサルスポーツをキーワードに、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造し、実施しております。

現在、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを提供いただき、実施すると共に、西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会、仙台ユニバーサルスポーツ研究会、（公社）日本エアロビック連盟、（特非）日本障害者フライングディスク連盟のみなさまに、ユニバーサルなプログラムを提供いただいております。また新たに障害者スポーツに関わる学生さんたちにも協力の輪に加わっていただく予定です。

実施時期 2020年4月～2021年3月

開催地域 全都道府県において1会場を予定

開催数 全国47会場（予定）

共 催 全日本自動車産業労働組合総連合会
後 援 内閣府、スポーツ庁、開催都市等
協力団体 日本福祉大学 Echos
西九州大学アダプテッド・スポーツ研究会
仙台ユニバーサルスポーツ研究会
（公社）日本エアロビック連盟
日本障害者フライングディスク連盟

(2) ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施



障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

2019年度には、西日本豪雨災害の被災地である広島県内において、障害者施設を会場に、体験いただきました。

今年度は、2019年台風15号等の豪雨災害の被災地である千葉県内を中心とした会場で、理解を広げる活動を行って参ります。

実施時期：2021年2月

対象者：障害のある方、教職員、一般等

ファシリテーター：

庄崎 隆志氏（office 風の器主宰・俳優・演出家）

メイミ氏（漫談家・特定非営利活動法人笑顔工房 理事長）

2. 開発、普及及び育成事業

(1) ユニバーサルスポーツのプログラム開発 ワークショップの実施



当基金が設立以来、実施を重ね開催規模を広げている「ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」事業では、多くの障害者スポーツに関わる指導者の助言や協力のもと、従来になかった新たな競技を開発し、プログラムとして提供してまいりました。日本福祉大学スポーツ科学部教授である藤田紀昭先生が、学生のみなさんと協議を重ね開発してきたプログラムです。

過去5年にわたり、ユニバーサルなスポーツ競技の新たなプログラムを開発することを目的として実施をして参りました。2020年度は、愛知県の日本福祉大学において実施し、障害のある子どもとそのご家族を対象として、スポーツを楽しむことのできるプログラムづくりをテーマに開催いたしました。

実施時期：2021年2月の3日間

会場：日本福祉大学他

講師：藤田 紀昭氏（日本福祉大学スポーツ科学部教授）
佐藤 一樹氏（仙台ユニバーサルスポーツ研究会）

(2) 各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。

(3) ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に努めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年4回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めています。

発行月：6月、9月、12月、3月

発行数：各2,000部。

3. 調査研究事業

(1) ユニバーサルスポーツの普及に関する調査研究～ 障害福祉サービス事業所を拠点として～の実施

当基金の設立目的である、よりよい社会づくりのために協働し共生社会づくりへの一助とするため、障害福祉サービス事業所及びユニバーサルスポーツの提供団体と連携し、障害の有無に関わらず行うことのできるスポーツプログラムの充実に寄与することを目的に、この研究を実施いたします。

①障害福祉サービス事業所におけるユニバーサルスポーツの取組の状況を明らかにする。

②地域を基盤とした、社会参加のためのユニバーサルスポーツの実例と障害福祉サービス事業所との連携の状況を明らかにする。

実施概要

実施主体 有識者による研究会

研究の期間 2年間 2019年度～2020年度

調査対象 初年度 事例研究

今年度は、障害福祉サービス事業所等のスポーツに関わる活動の事例研究として、障害福祉サービス事業所等のスポーツに関わる活動のアンケート調査を行い、実態を調査研究いたします。

ふれあいのスポーツ広場上半期の開催日程

自動車総連の皆様の心強いご支援により全国各地にて展開している「2020 年度ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」は、4 月より上半期の開催を迎えます。現在 25 会場を予定しております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響による、イベント実施の判断につきましては、当方ホームページをご確認ください。

No.	開催地	日程	会場
1	鹿児島（鹿児島）	4 月 6 日（月）	鹿児島市民体育館
2	宮城（仙台）	4 月 11 日（土）	カメイアリーナ仙台（仙台市体育館）
3	宮崎（延岡）	4 月 14 日（火）	延岡市民体育館
4	北海道（旭川）	5 月 12 日（火）	道北アークス大雪アリーナ
5	栃木（宇都宮）	5 月 16 日（土）	わかくさアリーナ
6	富山（富山）	5 月 16 日（土）	富山市八尾スポーツアリーナ
7	岩手（滝沢）	5 月 18 日（月）	滝沢市総合公園体育施設体育館
8	山形（河北）	5 月 19 日（火）	河北町民体育館
9	長野（東御）	5 月 23 日（土）	東御中央公園第 1 体育館
10	徳島（藍住）	5 月 26 日（火）	藍住町町民体育館
11	香川（善通寺）	5 月 27 日（水）	善通寺市民体育館
12	岡山（倉敷）	5 月 30 日（土）	倉敷市水島緑地福田公園体育館
13	福島（田村）	5 月 30 日（土）	田村市総合体育館
14	奈良（王寺）	6 月 1 日（月）	王寺アリーナ
15	高知（南国）	6 月 2 日（火）	南国市立スポーツセンター
16	愛媛（松山）	6 月 3 日（水）	愛媛県総合運動公園体育館
17	京都（京都）	6 月 7 日（日）	京都市障害者スポーツセンター
18	福岡（福岡）	6 月 8 日（月）	福岡市民体育館
19	岐阜（関）	6 月 9 日（火）	せきしんふれ愛アリーナ
20	広島（広島）	6 月 13 日（土）	マツダ体育館
21	山口（防府）	6 月 14 日（日）	ソルトアリーナ防府
22	福井（越前）	6 月 14 日（日）	丹南総合公園体育館
23	石川（金沢）	6 月 15 日（月）	いしかわ総合スポーツセンター
24	茨城（八千代）	6 月 20 日（土）	八千代町総合体育館
25	兵庫（尼崎）	6 月 24 日（水）	ベイコム総合体育館

ナイスハートなご支援をありがとうございました

2020 年 1 月から 3 月の間に、当基金へ賛助会員加入や寄付金並びに特定寄附金を頂戴いただきました。いただきました資金は、それぞれの活動のために有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

107,NICE HEART 8

【賛助会員】（一社）ゆいまーる支援センター様

【寄附金】合津正之様

